

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年 一月度 入選句 (投稿総数二千四百二十四・一般投句数六百十二句)

特選

ひらがなの墨うつくしき初日より 大垣市 秋山 くに子

ひらがなは平安時代漢字を崩したものに始まる女性のものとかが、この文化が日本の文学を育み、和歌や俳句の表記に旨く活用されて日本の文芸らしさを作り上げて来ました。

この俳句も十七音の中で二字しか漢字を使っていませんが、ひらがなの柔かさ、やさしさを生かして意図的に書かれています。

墨の跡も鮮やかな、ひらがな文字は目出度い初日よりにふさわしいやさしさがあります。

身のたけの幸せありて去年今年 不破郡垂井町 中嶋 笑子

身の丈とは自分なりということ、自分なりとは今の自分でいいということ、今の自分に満足をしているということ、これ以上高くを望まぬということ。

もつともつと高くを望むことはいいいことも知れませんが結果として不幸を招くものだと悟る心こそ幸せなのです。この幸せの中に去年を生きまた今年も生かされて行くことを願って止みません。

青空へメタセコイアの冬並木 福井県敦賀市 山田 美千代

きりつとした青い冬の空の下のメタセコイアを高らかに詠い上げました。このように詠い上げることができたのは、己の心がそのようであつたからできたのだと思います。メタセコイアの姿は希望の姿、今大垣ではソフトピアジャパンの並木道でしょうか。この並木の道の下を歩くと自ら背筋が伸びる思いがいたします。

秀逸

透き通る泡に身を置く初湯かな 揖斐郡大野町 藤田 涼子

しあわせをかみしめている雑煮かな 大垣市 岩田 正

退屈も倅せのうち葛湯吹く 福井県福井市 三ツ山 ひろし

橋脚にからむ流木冬ざるる 揖斐郡池田町 五十川 直靖

門口に鳩の来てゐる初景色 大垣市 町野 眞佐子

合掌で閉ぢる日記や去年今年 大垣市 末守 節子

全員が揃う我家の初景色 大垣市 山田 千歌子

眼開け踏ん張る仁王寒に入る 大垣市 野村 多佳子

神島の影黒々と鳥渡る 愛知県名古屋市 岩田 勇

トンネルに昼の電灯山眠る 不破郡垂井町 高木 巧

入選

初手前抹茶の泡をこまやかに	大垣市	棚橋	みさを
かなしみの中にゆめありけいとあむ	大垣市	藤墳	さとみ
冬日差し逝った我が子の部屋に漏れ	京都府城陽市	村松	秀一
水足してあかりを消しぬ寒蜩	不破郡垂井町	白井	梅乃
日向ぼこ掌に句を書き留める	大垣市	安福	けい子
糸切れし凧の武者絵の天睨み	北海道旭川市	葛西	ともこ
独り居に馴れて八十路も年の暮れ	不破郡垂井町	田中	不二夫
背の子の鈴鳴り止まぬ破魔矢かな	大垣市	傍島	豊子
まつ新たな下着の折目初湯かな	大垣市	末守	節子
雲間より光をはなつ初日の出	大垣市	安部	芳枝

入選

ここだけの話のはずむ女正月	不破郡垂井町	竹嶋	富美子
回廊の格子より入る初日かな	安八郡輪之内町	野村	照子
隙間風竈の残る通し土間	大垣市	鶴田	信子
変りなく二人暮しの初湯かな	大垣市	多和田	一徳
参道に胸ふくらませ初雀	大垣市	佐竹	幸子
思ひきり母に近づき御慶かな	神奈川県横浜市	龍野	ひろし
昼酒を少しいたただき初句会	兵庫県神戸市	岸下	庄二
庖丁を拒む冬至の南瓜かな	愛知県岡崎市	鈴木	正紘
時雨るるや使用禁止の木の本ベンチ	大垣市	鈴木	美江子
校庭の夕日は子らと共に跳ね	不破郡垂井町	高木	巧

選者吟

雪嶺のここまで来よと輝やけり

青志